

栃木県埋蔵文化財 センターだより

No.
41
2006.2

たまかいどう



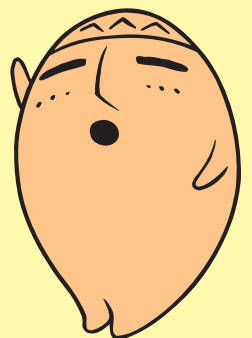
▲菅田古墳群（足利市）全景（5ページに関連記事があります）

特集 古墳時代の衣食住

2005年 発掘現場レポート
センター見学&体験学習のススメ
古代米のかまど調理体験

教員10年目
研修手記 栃木県埋蔵文化財センターでの研修を通して

とちぎ考古学最前線④ ～埋蔵文化財センターの役割～



旧石器時代から古代（奈良・平安時代）にかけての衣・食・住に関する歴史をシリーズで紹介します。

「古墳時代」とは、文字どおり各地に古墳が築かれていた時代です。3世紀代から7世紀代まで続きました。

「古墳」といえば、巨大な前方後円墳や、豪華な副葬品、埴輪などをすぐに思い浮かべることができますが、実際の暮らしの様子は、意外と印象がうすいのではないのでしょうか。最近の発掘調査によって、当時の生活の実態がより鮮明になってきました。そこで、これから2回にわたって古墳時代の衣・食・住について紹介します。今回は古墳時代の『住』についてです。

古墳時代の「住」

古墳時代の住居跡は、なかには立派な掘立柱建物なども見つかっていますが、大部分は縄文時代、弥生時代と同じ竪穴住居です。

古墳時代の竪穴住居も方形に地面を掘り下げて床を造り、柱を立てて屋根を葺いたと考えられます。しかし、古墳時代後半になる

と、それまで床面の中央にあった炉がだんだん造られなくなり、壁際に造りつける竈（かまど）が現われます。トンネル（煙道）を通して煙が屋外に排出される構造になっています。こうした形の竈は、以後、平安時代まで造り続けられます。



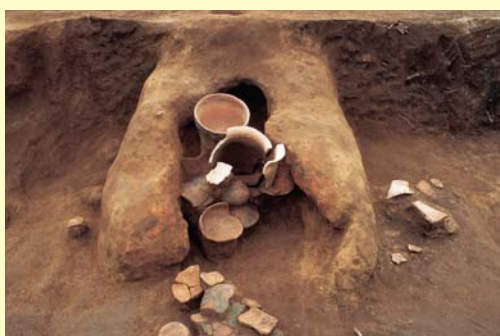
前期の竪穴住居跡（小山市 溜ノ台遺跡1号住居跡）
4本柱の内側に炉の跡があります。（点線で囲んだ所）



竈（佐野市 馬門南遺跡133号住居跡）
これも、保存状態の良い竈です。



後期の竪穴住居跡（野木町 清六Ⅲ遺跡275号住居跡）
北側の壁に造り付けの竈があります。保存状態が良く、焚き口や甕をすえた穴、煙道などが残っています。



竈の遺物出土状況（野木町 清六Ⅲ遺跡275号住居跡）
焚き口の上部は崩れていますが、甕が竈に掛けられたまま出土しました。

出入口

入口のハシゴ

古墳時代の村のあがた

今日、私たちが古墳時代の集落跡を発掘調査すると、当時の地面は残っていませんが、火山の噴火などで村が短期間に埋没すれば、当時の状況がそのまま残されます。イタリアのポンペイはベスビオス山の火山灰で埋もれた街として世界的に有名です。日本では群馬県の中筋遺跡（渋川市）と黒井峯遺跡（渋川市）などが、5世紀末と6世紀後半の2度の榛名山大噴火で、火砕流や火山灰に埋め尽くされた村として発見されています。これまでよくわからなかった、地面の上に直接建てられた、平地建物、畑、柵（垣根）などの存在が明らかになり、村全体のようなすも分かるようになりました。また、建物の構造も明らかになり、当時の暮らしを考える上で貴重な発見となりました。もちろん、栃木県の古墳時代集落を研究する上でも、大変参考になる遺跡です。



村の復元模型の一部分（群馬県かみつけの里博物館常設展示解説書より転載）
黒井峯遺跡の発掘結果をもとにして復元されました。柵で囲われた数棟の平地建物と、そこに付属する1軒の竪穴住居、このような組み合わせがいくつも集まって村を構成していました。柵の内外には畑があります。



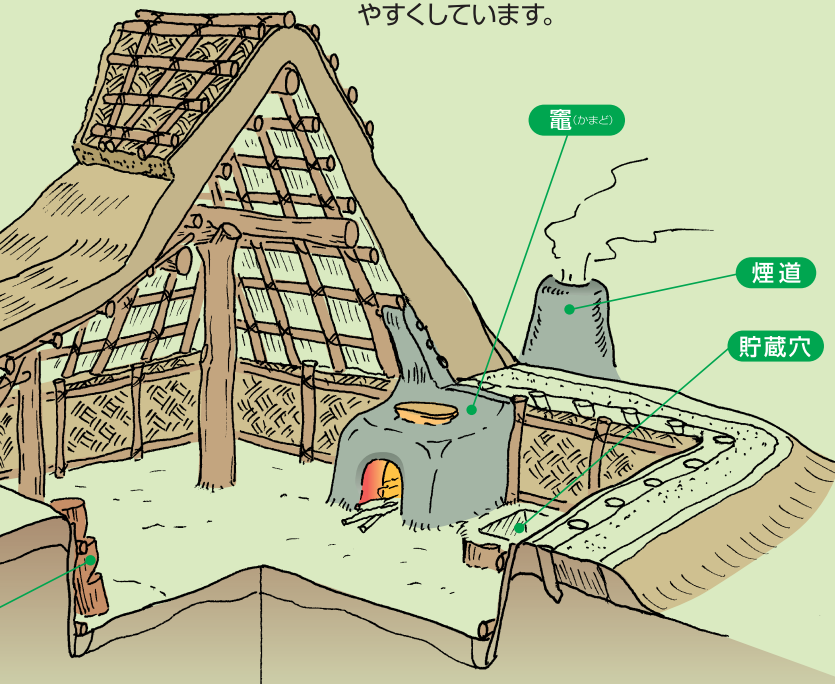
復元された6世紀の村（群馬県渋川市 中筋遺跡）
地面を掘り下げた土を家の周囲に土手状に盛っています。屋根は低く、草葺の上に土を塗り、さらに草で覆っています。



復元された平地建物（群馬県渋川市 中筋遺跡）
地面を床にした建物です。壁で屋根を支え、内部に柱はありません。小型で簡単な造りです。竈があるので、住居でしょう。倉庫などに使用されたものもありました。

竪穴住居の復元図

中筋遺跡や、栃木県内の発掘調査例をもとに復元しました。手前の屋根を切り取って中の様子を分かりやすくしています。



豪族の館跡

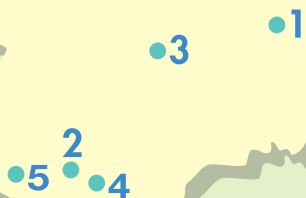
村々を治め、大きい古墳に葬られた豪族はどんな生活をしていたのか、その手がかりになる館の跡が、栃木県内でもいくつか発見されています。外側に堀や柵を巡らし、内側に竪穴住居や掘立柱建物が建てられています。



豪族の館跡（小山市 成沢遺跡）
堀の長い部分は一辺50mあります。堀の内側に柵の柱穴が並んでいます。さらにその内側に竪穴住居跡が発見されました。西側は削られているので、全体の形は分かりません。

2005年 発掘現場 レポート

県内の各地で
発掘しています。



当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けてください。

1 長者ヶ平遺跡 (那須烏山市)

ちょうじゃ が だいら

長者ヶ平遺跡は、焼け米が採集でき、長者伝説の地として語り継がれてきました。これまでは東山道がすぐ北を通るので、新田駅家の候補地とされてきましたが、遺跡の実態は不明というほかありませんでした。

平成13年度から実態を解明するためにはじめて発掘調査の鍬が入れられ、今年度が5年目にあたります。初年度には、大型の掘立柱建物群がコの字型に配置され、古代の役所跡になることが明らかになりました。その後、西側に焼けた倉庫群(米倉)などを確認しています。

これまで、役所全体を大溝が囲むと考えていましたが、昨年度、倉庫群の北側で北辺大溝が止まるということが明らかになりました。そこで、今年度は南辺大溝について、調査を行っています。その結果、北辺大溝と同じく止まり(写真参照)、大溝は倉庫群の三方(西、北、南)だけを囲んでいることがわかりました。

また、役所の範囲を調べるため、東方に調査区を設けたところ、大型の掘立柱建物群を確認しました。これまでの調査によって、役所は平坦な台地上に展開し、もっとも広い部分で南北350m、東西330m以上であったことが明らかになっています。



南辺大溝東端の調査状況(東から)

2 四十八塚古墳群 (佐野市)

しじゅうはちづか

平成17年7月より、北関東自動車道とこれに付随するパークイングの建設に先立って、佐野市出流原町に所在する四十八塚古墳群の発掘調査を実施しています。四十八塚古墳群という遺跡名が示すとおり、以前は広い範囲に数多くの古墳が密集して築造されていましたが、残念ながら昭和20年代後半に行われた土地改良事業によってその多くが消滅してしまいました。

現況では、古墳と認定できる盛り土は削平されていますが、現在の地表面下には遺体を納めた石室や、古墳の周囲にめぐる溝(周溝)が存在すると思われます。まだ、全体の1/3程度を調査したに過ぎませんが、予想どおり直径20~30m 規模の円墳が4基発見され、運良くその中の1つには石室の床面部分が残っていました。拳大の河原石が床面全体に敷き詰められ、その上には保存状態の良好な複数体の人骨が横たわっています。男性か女性か?年齢は?身長は?夫婦、親子それとも兄弟?人骨の鑑定結果が楽しみです。



石室に埋葬された人骨の出土状態

3

すな た うば ぬま

砂田姥沼遺跡3区 (宇都宮市)

砂田姥沼遺跡は北関東自動車道上三川インターチェンジの北約1kmのところにある遺跡です。ここでは古墳時代前期から平安時代のムラの跡が発見されています。今回紹介する耳環は、耳飾り（イヤリングあるいはピアス）のことです。この耳環は砂田姥沼遺跡3区の古墳時代後期（6世紀）の竪穴住居跡の柱穴内から1個だけ出土しました。耳環は両耳につける装身具ですから、古墳など、お墓の遺体頭部付近から2個が対で出土することが一般的です。しかし、今回のように竪穴住居跡から出土することもまれにあります。竪穴住居の柱穴を掘っている時に、なにかのはずみで耳から落ちてしまったのでしょうか。高さ1.75cm、幅2.0cm、重さ4.7g。環断面は0.5×0.25cmの楕円形です。銅製ですが、表面にごくわずかに金が付着しています。銅の棒を素材として、金箔を貼るか、金メッキをして、耳環としたものと思われます。持ち主が落としたことに気がつかなかったのなら、後でどんなに嘆いたことでしょう。どんな人の持ち物だったかは、もうわかりませんが、悲しい気持ちだけは十分に想像できます。



耳飾りをつけた人物を表現した埴輪
小山市飯塚35号墳出土（小山市教育委員会蔵）



出土した耳飾り

4

にし ね

西根2遺跡 (岩舟町)

西根2遺跡は、北関東自動車道の岩舟ジャンクション予定地にある遺跡です。平成17年6月からの発掘調査により、古墳～平安時代の竪穴住居跡や、中世から近世にかけての溝や井戸、土坑（地面に掘られた穴の跡）、柱穴などが多く発見されました。遺跡の標高は約34mと低く、遺構を少し掘り下げただけで水が湧きだしてしまいます。そのため、発掘調査は非常に難航しましたが、この水のお陰で、台地の上にある遺跡では見つからないような遺物が多く出土しました。

写真は漆が塗られた木製の椀で、中世から近世にかけて作られたと考えられる井戸跡の底から顔をだしました。内側と外側に、黒地に赤の模様が見られます。普通、土中の木は腐ってなくなってしまうのですが、ここ西根2遺跡では湧き出している水が空気を遮断していたために、このような木製の遺物がそのまま残ったのです。他の土坑や井戸跡の中からも、曲げ物の杵や底板などがたくさん見つかっています。



5

すげ た

菅田古墳群 (足利市)

菅田古墳群は山の上に50基の古墳が存在すると言われていますが、今回、そのうちの10基ほどを発掘することになりました。当時は遠くから見ると公園墓地のように見えていたと思われます。いずれも全長20メートル前後で、古墳としては小さい方です。このように、小さい古墳が密集して作られている状態を、

群集墳（ぐんしゅうふん）と呼びます。それぞれの古墳からは埴輪が出土しており、人物や馬をかたどったものもあります。珍しいものとしては刀の金具が出土しています。このような金具がついた刀は身分の高さを表わすと考えられています。足利市は古墳が多いところですが、栃木県の西部に位置し、群馬県に接しています。ただ、栃木県中央部や東部の古墳には群馬県の古墳と違った特徴を持つものがあり、それぞれの地域の個性があることが分かっているので、菅田古墳群の発掘結果は栃木県と群馬県の違いをはっきりさせる上で重要です。



菅田31号墳出土方頭大刀柄頭

センター見学&体験学習のススメ

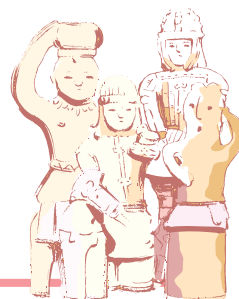
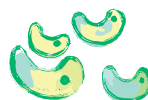
見て! 触れて! 体験できる!

埋蔵文化財センターでは、学校教育との連携のため、センター見学や体験講座などを行っています。今年度もたくさんの小学生から高校生のみなさんが来てくれました。初めて見る本物の土器にびっくりしたり、古代の生活を想像したり、埋蔵文化財センターにはたくさんの感動があります。

センター見学で、子どもたちが目を輝かせる場所は収蔵庫。収蔵庫はこれまで発掘して出土した土器などを保管している場所です。その土器の多さにも圧倒されるけど、なんといってもすごいのは実際に土器に触れること。博物館や資料館ではガラス越しでしか見ることができなかったものを、持ち上げて抱えることができるのです。「見た目より重い。」「昔の人はどうやって使っていたの?」とみんな大興奮。こんな貴重な体験ができるのも、埋蔵文化財センターです。



ほかに埋蔵文化財センターならでのこと。それは土器や石器に詳しい専門職員による説明です。原始・古代のようすをわかりやすく説明します。また、土器の文様のつけ方を実演したりもします。実物を見ながらの説明をみんな真剣に聞いています。時には積極的にいろいろな質問が飛び交う場面もみられます。職員は栃木県内の遺跡の調査成果をやさしく解説することに心がけています。



1時間位時間をとっていただけると、埋蔵文化財センターの見学をすることができます。2時間とっていただけると見学の他、各種体験講座を受けることができます。体験講座はこれまで下の例のような内容のものを行いましたが、この他学校のご要望に応じた内容も考えております。ご希望・ご質問など気軽にお問い合わせください。

例) 縄文時代と弥生時代の暮らし、縄文土器の文様のつけ方。

《普及事業担当》 Tel. 0285-44-8441 (代表)

古代米のかまど調理体験

製作した土師器による米の炊飯

国分寺町立国分寺西小学校は、6年生の総合的な学習時間の一環として、古代米の栽培とその煮炊きの体験を行いました。学校裏の田んぼで古代米を育て、古墳時代の土器（土師器の甕と甑）をモデルに自分たちで土器を作り、米を調理して食べるというものです。軽量ブロックで、校庭に“にわかカマド”を作って、古代米を蒸してみました。



カマドは火のまわりが良く、甕に入れた水は20分ほどで沸騰し、上に乗せた甑にも十分に蒸気が行き渡りました。しかし甑に入れた米は、芯が完全にとれるまでは蒸し上がりませんでした。それでもみんなは、蒸し上がった米をおいしそうにほおばっていました。

次の課題は、甑の中にどうやって米を入れたらうまく蒸し上がるかを考えることです。ブロック製のカマドを粘土などで覆えば、より古墳時代に近いカマドを作ることできるでしょう。



教員10年目研修手記

栃木県埋蔵文化財センターでの研修を通して

佐野市立南中学校 山田 裕功 教諭

栃木県教育委員会の研修には、教職10年目にあたる教員が社会体験をする研修があります。この夏、佐野市立南中学校から山田先生が発掘現場へ、研修を受けにこられました。山田先生から研修についての手記が寄せられましたのでご紹介します。

私は、教職10年目研修の一環として、8月23日から25日までの3日間、東谷中島地区の発掘調査にて研修させていただきました。日頃、私は社会科の教員として中学生に歴史を教えています。教科書に載っている通史学習が中心で、身近な地域の歴史を学ぶ機会ほとんどありません。身近な地域の歴史を学ぶことが必要とされている今、私自身が古代の文化に直接触れるよい機会だと思い、希望しました。

初日にお伺いします驚かされたのは、多くの作業員さんがいらっしゃることに、その作業員さん方の専門性です。私はセンターの報告書や研究紀要などしか見たことがなかったので、そこに載っている復元された遺物や遺構の図面などを当たり前のようにしか見ていませんでした。しかし、作業の様子を見て、発掘作業以外にも、気の遠くなるような接合の作業や緻密な製図の作業など、多くの方々の努力があってはじめて文化財を保存することができるのだということを実感しました。

私は主に、現場での発掘を中心に活動させていただきましたが、地域の開発状況に応じて決められた区画ごとに調査を行うことを知り、発掘調査の難しさを改めて実感しました。また、夏の暑い日差しの中、作業している作業員の方々には頭が下がる思いでした。

3日間を通して、発掘作業をどのように行うのか教えていただき、住居跡を掘らせていただきましたが、掘り進め

て行くと、土器の破片がたくさん出土しました。例えば小さな破片でも、出土したときはとても感激しました。ちょうど今、私が立っているところに古代の人々も生活していたのだと思うと、心躍る気持ちでした。

たった3日間の研修でしたが、発掘調査を体験し遺跡や遺物を見られたことは、私にとって素晴らしい体験でした。ほんの小さな土器のかけらでも、地面から出土したときの感動は忘れられません。本物のもつ重みを改めて実感しました。この貴重な体験を学校でも生かし、生徒達に伝えていきたいと思います。また、センターの力をお借りして、生徒達が身近な地域の歴史を学び、本物の文化財を学ぶような機会を与えていただけたら、と考えています。



今回は少しテーマを逸脱して、埋蔵文化財の役割を考えてみる。間接的ではあるが、それがとちぎ考古学最前線でもあると考えた次第。ところで、『広辞苑』で埋蔵文化財を引くと、「土中に埋蔵された文化財。もと文化財保護法の用語。遺跡・遺構・遺物をあらわす概念として使用」とある。埋蔵文化財という字句が市民権を得たことに感慨を覚えるのは、私だけではないと思う。

この埋蔵文化財の保護・活用を目的に設置されたのが、当センター。センターが設立されて来年度は15年目。一定の役割を果たしたと自負しているが、多方面から真摯な検討が必要である。その一つに、埋蔵文化財調査業務を通して地域史への貢献を模索し、その成果を県民や未来を担う子供たちに啓蒙・普及することがあると考えている。

地域史への貢献という視点から、近年、当センターが実施した埋蔵文化財調査の成果を、思いつくままに紹介していくことにする。

時系列的に縄文時代から。まず、このコーナーで最初に紹介した宇都宮市野沢遺跡。本遺跡からは縄文時代草創期の11,700～11,800年前、全国的にも最古級の竪穴住居跡が発見された。さらに、縄文時代像を一新させた遺跡として、後・晩期に大規模な土木工事が実施された小山市寺野東遺跡や縄文人の工芸技術の達成点と評価され、多様な造形品を残した藤岡町藤岡神社遺跡などがある。

弥生時代の調査は少ない。中期の再葬墓が発見された野木町清六Ⅲ遺跡や中期後半の人面土器が出土した栃木市大塚古墳群内遺跡が挙げられる。

次に、古墳で目に付くのは、佐野市での一連の調査である。前期では前方後方墳1基と方墳22基が群在して

発見された松山遺跡、後期では大規模な群集墳の様相が判明した黒袴台遺跡がある。集落跡の調査は県内全域に及び、確実に成果を累積した。なかでも、宇都宮市東谷中島遺跡群の調査は注目される。首長墓に隣接して発見された中・後期の大規模な集落の様相が判明し、東国における先進的ムラのモデルケースになる。

奈良・平安時代もすごい。律令政治の実務を執行した那須郡の郡役所である那珂川町那須官衙遺跡、仏教による鎮護国家の拠点になった下野市の下野国分寺跡、さらには都と国府を結ぶ東山道の駅路が県内各地で発見されている。この時代の集落もぼう大な調査が実施され、各種の情報が判明している。また、中世の道と市の全貌が判明した下野市の下古館遺跡など新しい時代の情報も確実に増加しつつある。

さらに、特定地区の地域史の解明にも貢献している。例えば、北関東自動車道路は本県に1本のトレンチ(試掘の溝)を設定したようなもの。県南山間部・宇都宮市南部・芳賀郡南部の歴史を垣間見ることができた。さらに、県南東部の小山市を中心とする新4号バイパス、芳賀郡北部の芳賀バイパス、各地の圃場整備などの調査成果は、各地域の歴史の一端を明らかにした。

1つの遺跡から得られた情報は少ないもの。それでも、栃木の台地にへばりついて調査し、小さな情報を発掘する。情報の累積が地域史を豊かにする。豊かな地域史こそが、真の郷土理解に繋がる。地域史へ貢献できるような小さくても貴重な情報を常に発信できるような仕事をする。このことが当センターの役割である。この役割は将来も変わらないと確信している。

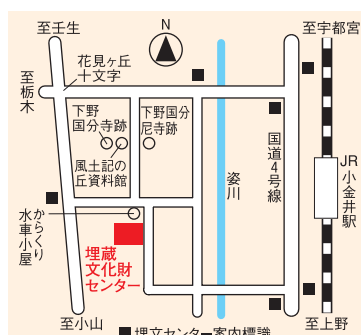
(財)とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
調査部長 橋本 澄朗

寒さが身にしみるこの時期、発掘現場では小雪がちらつく中、調査員たちが凍りついた地面と格闘しています。笑いあり苦労ありの1年間もう終盤にさしかかっています。次の埋蔵文化財センターだよりでは、今年度1年間の成果をご紹介します。来年度もみなさんに興味深く読んでいただけるよう、内容の充実にいっそう力を注いできたいと思います。ご期待ください。

発行 栃木県教育委員会
宇都宮市埴田 1-1-20 TEL.028(623)3425
平成 18 年 2 月 20 日発行

編集 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
〒329-0418 栃木県下野市紫 474
TEL.0285(44)8441(代) FAX.0285(44)8445
E-mail webmaster@maibun.or.jp
URL http://www.maibun.or.jp/

印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から
約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から
約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から
約9km、車で約20分